

昭和40年7月号(通刊第149号)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市一番町通町・新潟県教育庁社会教育課内】

【電話・(新潟)35511 内線624・625】
【振替 新潟 40941】

発行人 会長 吉津 勝栄
編集人 事務局長 本田 清

一毎月1回 15日発行一

【定価1部16円千共・年権180円】

題字 新潟県知事 塚田 十一郎

新潟県 公民館月報

第16回佐渡県大会終わる



部会討議盛り上がりならず

観光シーズンで地元は苦勞

第十六回県大会がさる七月九、十日の両日、佐渡郡相川中学校、同相川公民館で開催された。地元島内からの約三百名、上由下越から約二百名、計五百名が参加、本年度の全国共通主題「公民館は、住民のよりよい生活を築くために、どのような方を講ればよいか」を中心に三部会六分科会による討議をくりひろげた。二日目の分科会報告を聴きおぼしませたあと教育評論家重松敏一氏の記念講演、新潟日報論説委員成沢猛氏の講評をきいてふじ幕を閉じた。しかし総力を上げて受け入れ態勢の万全を期していた地元の苦勞も、折りからの観光シーズン、また時間的な制約等のあおを受けて美りが少なかった。

開会式は午後二時三十分、地元相川高校ブラスバンドの吹奏する君が代で幕を開いた。高橋副会長が代で幕を開いた。高橋副会長の開式のことば、吉川県教育次長吉津本会会長のあいさつとつづき前会長飛田一郎氏、前副会長梅山八十二氏、前理事小杉龍次郎氏へ感謝状贈呈、優良公民館三館、優等職員十九名へ表彰状を贈呈し

た。(別稿)このあと西野相川町長、重田佐渡町村会長の祝辞があり開会を終わらせた。当初出席を予定していた塚田知事は、県会が繰り下げられて開会されたためことしも不参加のやむを得なかった。二時三十分より、西野相川町長、吉川県教育次長、成沢日報論説委員長の三氏によるシンポジウム、三時四十分より二時間にあたり大分科会に分かれての部会討議があり、六時からは相川公民館で第一日を終わった。

第二日午前九時での部会報告が行なわれたが、時間的にも制約があり、質問は一つのみという低調で行なわれた。このあと、教育評論家重松敏一氏の「現代生活と社会教育」と題しての記念講演は「現在の社会教育はエリート中心の教育」としての意見を述べ、大衆はつらさを向いた。最後に成沢新潟日報論説委員「部長から次のような講評があり、(式)

昭和40年度感謝状贈呈者 被表彰公民館・職員名簿(敬称略)

- 感謝状贈呈者
- 飛田 一郎 前本会長 (高田市高田公民館長)
 - 梅山 八十二 前本会副会長 (直江津市福祉事務所長)
 - 小杉 龍次郎 前本会理事 (村上市助役)
- 公民館の部 (順不同)
- 荒川町公民館 岩船郡荒川町
 - 相川町公民館 佐渡郡相川町
 - 神林村公民館 岩船郡神林村
- 役職員の部 (順不同)
- 山本 一磨 (佐渡郡相川町公民館主事)
 - 山田 武夫 (佐渡郡新穂村公民館主事)
 - 栗取 克巳 (中蒲原郡村松町公民館主事)
 - 熊倉 久義 (南蒲原郡下田村公民館主事)
 - 今泉 富栄 (南蒲原郡下田村公民館主事)
 - 池田 清 (十日町市中条地区公民館主事)
 - 平沢 博 (栃尾市公民館主事)
 - 西須 誠吾 (加茂市公民館主事)
 - 五十嵐 清 (北蒲原郡豊栄町長浦公民館主事)
 - 大野 市平 (北蒲原郡豊栄町長浦公民館主事)
 - 大滝儀一郎 (岩船郡神林村公民館主事)
 - 高橋 可一 (岩船郡朝日村公民館書記)
 - 平井 康夫 (新井市公民館主事)
 - 山家 鶴吉 (三条市本成寺公民館主事)
 - 小野 岩男 (新潟市中央公民館主事)
 - 大沢 正一 (新潟市公民館大江山分館主事)
 - 細山 芳康 (新潟市公民館中野小屋分館主事)
 - 天兒 淑子 (新潟市公民館普野木分館主事)
 - 風間 清春 (高田市高田公民館主事)

目次

関東甲信越圏地区研修会要項…………… P・2

今後の公民館：私ぼこそ思…………… P・3

分科会ハイライト…………… P・4・5

全国社教委研究協議会に参加して…………… P・6

県青年学級生大会要項…………… P・7

動は複雑で、目的を見失っていき二日間の日程を終了した。婦人学級、青年学級も中途へ「よかった点。公民館が統制の行政の欠陥を受けとめて、社教関係団体のみでなく、企業団体等との横の交流進歩を深めている」という事例があるといふことを分科会で言及された。

苦言を呈したい点。分科会は、もっと高度の発言を期待していたが底層な感じを受けた。二日目の参加者が、前日の半数以下に減衰してしまいましたが、社教教育をやる人間自らが、こんな状態ではお話しにならない。(カット字は開会式)

昭和40年度関東甲信越静地区 公民館職員研修会開催要項

関東甲信越静地区公民館職員研修会は、文部省が例年各県持ち回りで行なっている職員研修会である。ことしは本県佐渡郡において開かれることになり本県教委が例年行なっている、いわゆる公民館職員長期講習の前期講習を兼ねて行なわれることになった。したがって本県参加者は9月上旬県青年の家で行なわれる予定の後期講習を受ければ7単位を履修したことになる。

1. 趣 旨

公民館の施設および運営の充実強化を図るため、これに必要な知識と技術を中心として、関東ブロック公民館の職員に研修の機会を提供する。

2. 主 催

文部省、新潟県教育委員会

3. 後 援

新潟県公民館連合会

4. 期 日

昭和40年8月3日(火)～7日(土) 4泊5日間

5. 会 場

第1会場 新潟県阿津市大字椿 大佐渡ロッジ
第2会場 " 佐渡郡金井町大字中興 白雲荘
第3会場 " 佐渡郡相川町春日崎 ホテル大佐渡

6. 参加者

- (1) ブロック内各都県管下の公民館職員各5名程度
- (2) 新潟県内公民館職員 50名

7. 参加申込

別紙様式により、新潟県以外の各都県では、各都県教育委員会で一括とりまとめるうえ、新潟県内では各市町村教育委員会ごとに7月28日までに次へ申し込むこと。
新潟市一番通 新潟県教育庁社会教育課
電話 新潟(3)5511 (代) 内線622～625

8. 参加費

- (1) 宿泊費 4泊分 4,500円
- (2) 資料その他雑費 若干

9. 講義題目および講師 (一部交渉中)

- ・ 地域開発の現状と課題
東洋大学教授 米林富男
- ・ 社会教育の当面する課題
群馬大学教育学部教授 永杉喜輔
- ・ 公民館事業の企画と運営
文部省社会教育課
- ・ 広報の意義と館報の編集技術
上智大学講師 樋上雅一
- ・ よろず相談とカウンセリングの方法
文部省社会教育課
- ・ 話し合いの進め方
新生活運動協会 田辺信一

10. 研究協議

- (1) 主 題
 - ・ 市町村の地域開発計画と社会教育計画
 - ・ 社会教育における広報活動の問題点
 - ・ 公民館活動の現状と問題
- (2) 司会および助言者
講師および各都県教育委員会施設担当社会教育主事

11. 日 程 下図のとおり

12. その他

- (1) 視 察
大佐渡 スカイラインコース 尖閣湾～相川町郷土博物館～佐渡金山跡～佐渡博物館～真野御陵～国分寺～妙宣寺 等
- (2) 都合によって8月2日(月)に新潟市での宿泊を希望する者には、市内の県立青年の家をあっせんする。
- (3) 佐渡汽船(新潟・阿津航路)時刻

新潟発	阿津着	阿津発	新潟着
8:00	10:30	8:30	11:00
9:00	11:40	11:30	14:00
12:30	15:00	16:00	18:30
16:10	18:40	17:00	19:40

- (4) 佐渡汽船新潟乗船所へは新潟駅前から「佐渡汽船行」バスがある。
- (5) 阿津港には案内所を設け、そこから第1会場「大佐渡ロッジ」へ案内する。

日 程 表

月日	時間	曜日												
		8月3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	
8月	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00
5	火	受 付					夕食, 入浴	懇 談 会						
4	水	開講式	地域開発 (米林)	昼食	広 報 (樋上)	会場移動		夕 食	研 究 協 議					
5	木	研 究 協 議 (事例発表)		昼食	公 民 館 事 業 (文部省)			夕 食	研 究 協 議					
6	金	相 談 技 術 (文部省)		昼食	話 合 い 法 (田辺)			会場移動	夕 食	研 究 協 議				
7	土	社 会 教 育 (永杉)		閉講式	昼食	視 察								

分科会からのハイライト



成沢日報論説副委員長の講評は「もっと高度な討議内容を期待していた」とのことであるが、二日間の大会日程中、部会討議は、実態発表の時間を合めわずか二時間というのでは、内容の掘り下げを期待する方が無理だったのかも知れない。今後は、同テーマを闊公連大会、全公道大会へと積み上げていく方針であるが、県内からの参加メンバーが、必ずしも一致せずはじめからむし返しの討議となりやすいことが悩みの一つである。せめてこの分科会ハイライトでも読んでいただいで積み上げの实を上げていただきたいものだ。

(盛況だった第1分科会)

第一部会

住民のよりよい生活へ、明るい社会を築くための公民館の行財政はどうかあるべきか。

第一分科会(市街地、都市周辺)

- ・助言者 富田佐渡郡村会長
- ・実態報告者 五十嵐県社会教育主事
- ・司会者 長岡市公民館長補 佐 皆川憲司氏

・司会者 高田市金谷公民館 古川主事
・参加者 三十四名
一教育委員会は、公選制から任命制となつて弱体化した。
このために公民館も一層力が弱くなつてゐる。

学校PTAがあり強い圧力者となつてゐる。住民全体が公民館の後援者となるよう公民館は住民と直結しなければならぬ。

2 市町村の総合開発計画や、長期教育計画にそつて、多面的な広報活動を通じ、また、住民の要求をキャッチして、それを事業内容に盛り込んでゆく。

3 公民館職員は、一般行政職の職員の身分であるが、行政事業を通じて、教育職員と考へてゐる。

第二分科会(農山漁村)

- ・助言者 庵原羽茂町長
- ・実態報告者 宮川県社会教育主事
- ・司会者 岩田郡山北村公民館 五十嵐主事
- ・参加者 十日町市公民館池田主事

一公民館の統廃合による問題
地区館を充実した方がよい。分館を充実したが良いの二つの意見がでたが、統廃合をすることが良いのではなく住民の立場になり分館を充実したい。
二職員の問題について
一般部局との人事行流について
優秀な主事が行政部局へ吸い上げ

第二部会

住民のよりよい生活と明るい社会を築くために公民館の行財政はどうかあるべきか。

第三分科会(社会教育関係団体)

- ・助言者 仲田県社教主事
- ・実態報告者 山崎県社教主事
- ・司会者 船内山主事
- ・司会者 新潟市中央公民館小野二、公民館は、各種団体の連絡媒

主事
・参加者数 六二名
一 文部省や県では、次々と新たな学級育成を指導するため、時に婦人は困惑している。
一 追放婦人の気持を知っているのか疑う。

ベテランのプロフィル

相川町公民館主事

山本一磨氏

都立大の三井にみた後々たる氏の一面が今先生が、『佐渡に語つて』ができてゐる。どんなの高一というとな人にも愛されられしれヒューマンな面が、マニマニにあられた一面は、あんなに困つて一期待される人間像の表徴といふんぞうか? でもいいところ。

と東京教育大学 昭和三十年に公民館主事になつて開かれた日る前は、会社に勤められ化学製本社会教育学会 品の研究に当り、兵隊では特攻隊員として沖縄に転戦、復員後のかえり道であ 隊員として沖縄に転戦、復員後深そうにつぶや 団長 郡連議長等社会教育活動された。というに献身 昭和二十八年に役場書のは山本さん 記となる。

の学会での個人 去る七月九、十日と地元相川町で開かれた第十六回県公民館大会では大活躍。晴れの地元大会で優良公民館主事として表彰されたのもうべなるかな。

資格に社会教育主事はもちろん、事務主任・経営調査士とはが広い。スポーツもテニスと水泳のベテラン。家庭では二男二女のパパだが、長男は東京、長女は高校寄宿舎、本人は相川

域の実業調査が叫 下宿 奥さんは石名とバラバラはれたころ、六〇〇を、戸一戸訪びのび、たた一つの楽しみ「家族旅行」も当分駄目らしい。

など探ぐましい努力と共にユーモア (文責編輯部) (写真は山本主事)



大会

※ 三、青年の減少が目立っている。手合を引き上げると共に、目的課題部門別の小団活動を養成し、協議会の中に位置づけた青年団とすべきではないか。

第四分科会(社教行政関連機関)

- ・助言者 山崎県社教主事
- ・司会者 鉄道神岡町社教課長
- ・発表者 皆川貞十社教課長
- ・参加者 三七名

公民館が地域住民のすべに本仕し、解放的な文化活動の機関であり他の専門的機関と住民との結びつきの場であり、仲間つくりの場であることから行政関連機関との連携は困難がある。だがやらねばならぬ。

例えば、成人式を例にとれば、国民の例であるが、全市民あげ

第三部会

住民のよりよい生活へ、明るい社会を築くために公民館は国民運動としての、新生活運動、明るく正しい選挙推進運動、貯蓄推進運動、健康運動をどのように展開したら良いか。

第五分科会

- ・助言者 工藤県社会教育主事
- ・発表報告者 新井田市民館館長 山田順吉氏
- ・司会者 刈羽公民館館長 木村博保氏

国民運動も健民運動もその意味は良い、要は新しい生活を作り出すことだ。新生活運動、運動を展開して行くために公民館は住民に運動の意味を良く認識してもらうとともに、実践にあたってはあらゆる組織と連携を要する。

第六分科会

- ・助言者 相沢県社会教育主事
- ・発表報告者 直江津市公民館主事

運動を徹底させるためには、予算的な裏付けが必要だ。対象地域の実情を良く知り、それに即した新しい運動が必要だ。団体終了とともに消えた、「四ツの柱」を再びとりあげる必要があるのではないか(実践面での関連提起)。

公民館は、新しい実践活動として週一回の農休日実施を目標として努力しよう。

裏方さん繁昌記

てんやわんやの八カ月

矢野甫夫氏

・司会者 龜田町高橋社教主事

・参加者 二〇名

国民運動にして、健民運動にして住民の自主的、主体的な活動のとして取りあげるよう努めるべきだ。一つの問題を取りあげる時その時点だけでなく、あらゆる機会を要するのであって、運動そのものをとらえて、その前準備、展開を要実践するのは、本務ではない。

(大会速報による)

はなやかな大会の舞台のかけには必ずといっている位、裏方をやぶられ、わむけなことでキリキリの、それがあらぬか金場さえも、決定まで、一転、三転、看板下見に頭へ走り、配車依頼で西へと、佐渡は「おけさ」と鬼太鼓、テニスコ舞は、お上手、お上手。

◎ うらめしいのは参院選参院選が四日目のびた。大会期日も延期になった。

旅館はおこる。事務局は困る。頭下げるのは誰のため……。

◎ 有家無家も数えあれば、中にはまじな取もある。

大会参加者の証書のアイデア、お気に召したの、おせよ。

◎ 彼等の労苦は、開会の拍手でねぎらわれるのだ。(大会速報)から

旅で拾った話

名古原から京都までの東海道 女性をからかったり、考えさせ練ぞいの耕地、そこには、昔の、られた東京の高校生もあつた。雲々の農民の姿が見られた。新彼らの行動や態度が、見知らぬ幹練やハイウェイ、国鉄や私鉄、観光客や土地の人々とのような線の間を点する水田には、牛、印象をあたえるのか、かかって焚やクワを手にした人たちが、勤教師の指導、統率にあると感じていた。田のこの月でも、見られたことであつた。

れぞうな曲がりくねつたあせ、にりっはに耕地整理された川西の水田を照らした。たまた耕してきえいれは、地代は、どんあがる、そういつて米つくりにはたいして身を入れない、気かした。それなのに、耕らした川西も、りもラクなやつ、地の利を得ていることに加え、頭の使いようで、こうなるのだと思えてならなかつた。

京都、奈良、伊勢は、どこもおびただしい人波で、こつたがえていた。そのほとんとは、修学旅行の児童や生徒だつたといえる。臨見島から来たといひの商店をつくの、はめんたといひ中学生は、何話しかけても、ってサラリーマンになつた。西八キハキと答えてくれて、感じよ、労て築きあげたこの町をたれた。米子市の小学生が旅のにゆすつたらよいのか、こつたエチケットをじつによく守つて、って、けく、ケースが多いといひいたのには感心した。その反面、こつた核の家族が、こ紙くを散らしたり、他人のれまでの直系世代家族を押しめいわくを無視して、さわいたりはじめた。広報(かわ)し、

も、わが町に共通したなやみのあることがわかつた。きかせられたのは、川西田身功の功の名を、けた人、あつて、きかた、というのである。自分たちは農家の二、三男の田小学校を終える、すぐに東京へ出た。テッチ泰公ひとすに、主人に認められ、ノレをわけてもらい、ようやく今日を得た。学問がなかつたばかりに、苦勞したが、子どもには、決つてこの思いをさせまい、そう考へて、ムリして大学教育を受けさせた。ところが、卒業したむすこは、オマシ



(第16回 園遊会 大盛況)

「わが家の家計簿」体験談募集

主催 貯蓄増強中央委員会
都道府県貯蓄推進委員会
後援 日本放送協会

「豊かな家庭生活」への羅針盤として役立てたいという
趣旨から全国の皆さんから家計簿の貴重な体験談を募集し
ます。

○ 内 容

家計簿をつづけはじめた動機、家計簿をつける苦労話
や家族の協力の様子、家計簿で発見したムダやム
リ、最近の物価高を家計簿記帳により、うまく乗り
切った体験、家計簿をつける喜びや、つけてよかった
こと、グループによる家計簿記帳の勉強ぶり、家計
簿をもとにした、これからの明るい生活設計、など
なんでも自由に書いて下さい。

○ 原 稿

- (1) 本文は400字詰原稿用紙5枚程度 (2,000字)
- (2) 原稿には、応募者の住所・氏名(ふりがなをつ
ける)、職業、年令、家計簿記帳年数のほか、
同一家計でくらす家族一覧表(応募者との続柄
・年令・職業・就学状況など)をそえて下さい。
本文のほか最近3か月の記帳内容のわかる表を
そえて下さい。
- (3) 応募原稿はお返ししません。封筒の表面に「家
計簿体験談」と書いて下さい。

○ し め 切

昭和40年9月30日(木) (当日消印有効)

○ 入 選

特選	3編	賞金	各3万円
秀作	7編	"	各2万円
佳作	40編	"	各5千円

入選者には賞金のほか記念品を、応募者全員には
貯蓄増強中央委員会作製昭和41年版「あかるい生活
の家計簿」をさしあげます。なお、入選編の著作権
は主催者に帰属します。

○ 入選発表

昭和40年12月上旬、本人に直接通知するほかNHK
放送などで発表します。

○ 審 査 員

大浜英子(評論家、中央選挙管理委員会委員長)他

○ 送 り 先

新潟県貯蓄推進委員会
新潟市尚厩町 日本銀行新潟支店内

県青年学級生大会開催要項

1. 趣 旨

県下の青年学級生の代表が一堂に会し、口頭の青年学
級の成果について話しあいをおこない、研修、交歓を
とおして県下青年学級生の連絡提携をはかるとともに、今
後の青年学級の発展に資する。

2. 主 催

新潟県教育委員会 村上市教育委員会 NHK新潟
放送局

3. 協 賛

新潟県公民館連合会 新潟日报社 新潟放送

4. 期 日

昭和40年8月28日(土)、29日(日)

5. 会 場

村上市 瀬波温泉(羽越線 村上駅下車 バス10
分) すずきが池旅館

6. 参 加 者

市町村各青年学級生代表

7. 講 師

NHK海外報道班員(交渉中)

8. 助 言 者

県青年学級研究協議会委員 県社会教育主事

9. 分科会の編成

第1分科会	第1次産業従事青年
第2分科会	第2次産業従事青年
第3分科会	第3次産業従事青年

10. 分科会の議題

現代における青年の正しい生き方を確立するための
学習はどうあるべきか。

11. 研究内容

- (1) 講義 本県青少年教育の現状と問題点
—青年学級を中心として—
- (2) 実状発表 ・青年学級生代表 3名
・県外研修生代表 1名
- (3) 講演 世界の青年
・世界各国の青年を、教育、文化、
生活、職業などの広い面からとらえ
記録フィルムを通しての講演

まだまだ未熟な段階

飛田一郎

今回のねらいは、社会の発展に取らざるべき教育を感ずる。
に伴う家庭教育、家庭生活の諸 社会開発と社会教育のつなが
問題を研究討論するとともに、 りについては、簡単に論じら
社会教育委員の任務および活動 れないが、社会開発の中で教育
方針を討議し、あわせて、社会 せざるべき位置づけるとい
教育の発展に寄与するのが主題 である。
である。

今回、新しく提案された「社 行政部局で構成され、できあ
会開発と社会教育」の問題が、 った計画の実施段階で生じた諸
今までの研究会で論議されなが 問題も教育的に取り組んでき
った分野である。社会開発と たような場合が多かった。しか
は、国民の経済面の発展を旨 ず、経済開発に対し直接国民の 教育関係者が参画し、その立場
で計画にのりこまなければ、
福祉向上を旨とした施策や計画 社会開発における社会教育本
を指している。

これは、経済の高度成長の反 来の役割は果し得ない。社会教
面、地域住民のこの福祉面がお 育は、社会開発の下請的な存
ろそかにされている傾向の反省 在していると思われる。
として提案されたものである。 常に将来を予想して十年先を
る。社会開発の概念についても、 見とおすような資料をことの
また具体的に明確化されてい へ、研究しておかなければなら
ないが新年度に建設的な若者進 ない。

みつがある現状において、社会 全国社会教育委員連絡協議会
教育の面からの取り組みが一つ の都道府県への加盟は、未だ二〇
の問題となってきたのである。 府県が不参加の現状では、文部
人口問題協議会には、社会開 省としても、本腰を入れていく
発とは、都市、農村、住宅、交 わけにはいかない状態ではな
通、保健、医療、公衆衛生、社 いか。

会福祉、教育などの社会面の開 文部省の社会教育局長の講演
発の領域に並列的に教育が組み も大会に出席された社会教育委
込まれているが、教育の立場か 員の感激をそそぐような内容が
ら考えざるべき主体である 少しもなかつたことを残念に思
人間そのもの問題として別個 う。(本会顧問・県社教委員)

